

平成30年度大槌町心の復興事業採択事業一覧

NO	事業名	団体名	代表者	事業の目的・概要	交付決定額
1	震災被災高齢者のおでかけ支援による助け合いコミュニティ醸成支援事業	特定非営利活動法人さんりくWELLNESS	熊谷 侑希	被災高齢者の孤立防止のための助け合いコミュニティの醸成と、復興工事の影響による移動困難者の閉じこもりの予防に向けた、移動の足の代行サービスを行なう。行き先やメンバーなどは参加者に合議してもらい、主体的に意欲をもって参加できる工夫を行ない、「おでかけ」というきっかけから、住民同士の助け合いのコミュニティの醸成につなげることを目的とする。	¥2,000,000
2	地域のつながりと生きがいを育むサロン事業	おおつち おばちゃんくらぶ	川原畑 洋子	本事業では、仮設集会所、地域の自治会館などで、もの作りサロンを中心に開催し多世代の交流と生きがい作り、住民同士の情報交換、お互いを見守り支え合う事を生み出していく。また、これまで進めてきた小さな手仕事を更に発展し、自発的に取り組みができるように進めていく。	¥1,779,000
3	高齢者の生きがいづくりと若手担い手の育成事業	一般社団法人おらが大槌夢広場	臼沢 和行	大槌町を訪問する外部団体(学校、企業など)と、主に公営住宅団地住民とその近所に住む住民の方々との交流事業を企画し、ともに実施する。参加住民は、「交流事業の企画実施」という共通のゴールに向かって活動することで、自然とつながりができ、新コミュニティ形成の一端を担うことができる。また、訪問団体の世代が中学生から30代くらいと若いことから、様々な町民世代を呼び込むのに適しており、世代を超えた地域のつながりを形成することが出来る。また、語り部の育成を継続し、新たな担い手の確保と町内外における震災の風化防止に努める。	¥1,327,000
4	大槌町における生涯健康脳推進事業と高齢者自立促進事業	特定非営利活動法人ソーシャルハーツ	川上 誠	応急仮設住宅及び災害公営住宅などに暮らす高齢者を対象に認知症一次予防につながる健康脳推進事業、「多世代間交流」及び「社会貢献活動」による生きがい作りとコミュニティの形成促進事業を目的とする。主な事業内容としては、平成29年度の成果を踏まえ、今年度も月二回脳トレ(主に数独)の「シニアハーツ教室」を高齢者支援センター並びに災害町営住宅集會場で継続し地域コミュニティ形成の活性化に貢献する。災害公営住宅を戸別訪問し、特に男性高齢者へ数独を促進し孤独防止を図る。MITジャパンプログラムの学生達を8月に招いて「多世代間交流」を遂行する。	¥1,500,000
5	住民主体の地域福祉力を促進する「場づくり」事業	NPO法人つどい	岩間 秀夫	今年度、応急仮設住宅の集約と新たな地域での暮らしの再建等、居住環境の変化が加速する。地域の課題として孤独、高齢化、震災がもたらした分断された地域のつながりが挙げられている。社会的弱や認知症、独居高齢者等も共に暮らせる地域づくりが求められる。本事業では、住民主体のサロン運営や地域イベント運営に携わることで、地域課題解決に対応する地域内ネットワークの定着、実践内容の情報共有を図る。地域包括ケアのめざす、住み慣れた地域で、その人らしい暮らしを営むことの実現に近づけていく。	¥1,000,000
6	大ヶロ・源水地区 地域共生交流事業	ワーカーズコープ	田嶋 羊子	本事業では、震災の影響による新規転入者の多い大槌町大ヶロ・源水地区における住民同士の交流の機会を住民と一緒に作りながら、孤立の防止に努める。同地区は、震災後に自宅の再建や災害公営住宅の入居が進み、震災前からの住民と新たに同地区に移り住んできた住民の混在が特に大きい状態となっている。既存の自治会活動も震災後に徐々に再開、災害公営住宅で新たに自治会が立ち上がったものの軌道にのって行くには時間を要することから、本事業を通し、自治会活動をサポートする草の根の住民の主体形成を図る。	¥1,145,000
7	災害公営住宅(マンションタイプ)のコミュニティづくり支援事業	認定NPO法人遠野山・里・暮らしネットワーク	菊池 新一	被災から大槌町の住まいの復興事業は、「仮設住宅」から「終の棲家」へ移行が進んでいる。その中で、コミュニティづくりが課題である。昨年度から引き続き事業の継続に取り組む。具体的には、「編み物サークル」「男の料理教室」などに加え新たに、当法人が支援し大槌町で起業した事業所、商店の方に呼びかけ講師となっていたことによって起業者と地域のなじみをつくり、相乗効果を期待したコミュニティづくりがより活性化することを目指す。	¥1,000,000

NO	事業名	団体名	代表者	事業の目的・概要	交付決定額
8	薪が紡ぐ、生きがい・人・街づくり	NPO法人吉里吉里国	芳賀 正彦	被災者の方々に林業への参画を促し、林業による生きがいづくりを行う。森林空間を利用し、小、中、高生を対象とした森林教室を開催し、町の次代を担う町の後継者育成を行う。また森林作業から産出された間伐材から薪を生産し、有効活用することで、世代間交流・内外交流活動を促進し、震災の記憶の風化防止を行う。 ①自伐型林業による生きがいづくり ②町の次代を担う後継者育成 ③内外交流促進による震災の記憶風化防止 ④地域集落の里山整備活動	¥1,508,000
9	自主的な活動プログラムづくりを通じた被災住民等のコミュニティ活動担い手発掘育成支援事業	東京大学	大方 潤一郎	仮設住宅等から復興市街地への移行期にあたる現在、世帯減少下で生活を続ける仮設住民、地域に対する新住民となる転出住民のそれぞれが環境変化によるストレスに晒されている。これら被災者等の心身の健康のためには生きがいを持つことが重要であり、孤立化や虚弱化を防ぐために社会参加も不可欠である。一方で、そうした社会参加の場を、地域住民が主体的に関与し、運営するも重要である。そこで、当事業では被災者自身が学びや楽しみといった生きがいを見出す機会を設け、対応する活動への企画過程からの参加を通じて住民間の関係形成を支援する。さらに、活動の継続に関心のある地域住民との話し合いの場や学び合いの場を支援し、継続的なコミュニティ活動の自走化の促進を図る。	¥1,287,000
10	大槌町居場所づくりサポーター育成・普及事業	おおつち支え合い協議会	佐々木 亮	東日本大震災から5年が経過し、現在、仮設住宅から自宅再建や災害公営住宅への入居等の動きが少しずつ進む中で、町内のそれぞれの地区での新たなコミュニティ形成が求められている。私達は居場所づくりの担い手育成と各地域での居場所づくりの推進を目的に活動する。	¥621,000
11	住民主体の生きがいづくりと地域交流事業	新生おおつち	多田左衛子	被災者が活動を通していきいきと生活し、地域の活性化にも寄与することを目的とする。また、他地域へ避難、移住した方達と交流することでお互いの近況を語り合い心の復興を目指す。	¥1,950,000
合 計					¥15,117,000